

WEP

ウエップ俳句通信

VOL. 85

俳句通信

特別作品25句 ● 斎藤夏風「杜若」

特集 ● 「戦後俳句の探求〈辞の詩学と詞の詩学〉

——兜太・龍太・狩行の彼方へ」を読んで

関 悦史・田中亜美・井上康明・仁平 勝・高柳克弘

【特別寄稿】

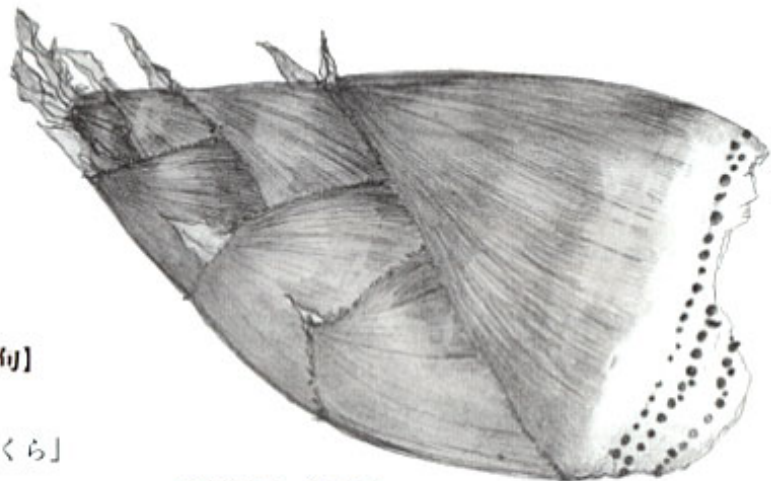
「俳句言語にとって美とはなにか

——俳句の表出論の試み——(その2)」西池冬扇

【特別寄稿30句】

吉岡桂六

「木の花30句」



【実力作家競詠20句】

小林輝子「清明」

松浦加古「鳥曇」

高橋さえ子「初ざくら」

● 作品 ●

赤尾恵眞・大高霧海・山元志津香・
石渡句・大木あまり・森田公・
平木智恵子・宮田正和・川崎慶子・
斎藤信義・前澤宏光・檜 紀代・
秦 夕美・野田植男・村上喜代子・
宮谷昌代・西池みどり・広瀬恵美子・
森田純一郎・吉田光政・丹羽真一・
鈴木章和・佐怒賀直美・辻村麻乃

● 好評エッセイ ●

先人に学ぶ俳句「飯田蛇笏(五) ——句集『靈芝』(一)」岸本尚毅
俳句とともに「飯田龍太の風景——『百戸の路』」井上康明
川崎展宏の文藝「しろくも」(『虚子から虚子へ』)須原和男
虚子の肖像「九州へ行く」坊城俊樹
森澄雄の背なか「美しき落葉と……」千田佳代
虚子散文の世界へ「事実とフィクションと」本井 英
地味で変な虚子句 五句集を競む「混ざりあう主客」阪西敦子
岡本陣の俳句「ボビー咲く——『二人』」小川美知子
戦後俳句の戦略「秋桜子・波郷・登四郎・湘子——馬酔木新人会」筑紫磐井

痩せすぎの少女でありし木の芽風

藤田直子

ここ井の頭公園が私の故郷です。戦後、広島市出身の父がこの近くに家を建て、私はその家で生まれました。当時はまだ武蔵野原野の面影があちこちに残っていて、雑木林が多く、赤土の畑があり、冬には井戸端に氷が張りました。その頃の思い出がときおり句材として現在によみがえります。井戸、鶏小屋、風呂焚き、タリア、イイなど。引っ込み思案で無口な子どもでしたが、後年、言葉が少なくてすむ俳句を選ぶことになりました。すべてはこの地から始まったと思うこの頃です。



源泉に硫気ほのかや木の芽時

上田五千石

ダム

JR吾妻線は嬬恋村の大前駅と渋川駅を結ぶ。昨
年秋、途中の長野原草津口駅と岩島駅の線路の切り
替え工事が行われた。これは嬬恋村の隣り、長野原
駅にできるハッ場ダムの建設に伴うものである。

この切り替え区間にある川原湯温泉駅は水没を
さけるため高台に移転した。そしてこの駅に近い樽
沢トンネルは用途廃止となりその役目を終了。その
長さはわずか7.2m、JR吾妻線で日本一短いトンネ
ルといわれていた。

ハッ場ダムは今年に入って起工式が行われ、いよ
いよ本体工事に着手した。計画浮上から実に60年以
上たつての本体着工である。吾妻溪谷沿いには名だ
たる温泉が多い。川原湯温泉は高台に移転され、新
しい源泉から湯を引くという。

絵・文 松本善一



特別作品25句

杜若

斎藤夏風

苔庭に日射しほのほの寒椿
寒蕨に鳥影しかと大榎
水餅に四十年の益子焼
涅槃図の小さきを掛けて山の寺
夕映に洗ひあげたる野蒜の根
水草みな流れに伏して雪解水



特集

戦後俳句の探求

〈辞の詩学と詞の詩学〉

——兜太・龍太・狩行の彼方へ
を読んで

弊社より先に筑紫磐井氏の「戦後俳句の探求」が刊行されましたが、本書は「伝統の探求」の姉妹編として筑紫俳句論の現在を明らかにしたものです。俳句に係わる人たちにはかなり、刺激的。な著書であると思われます。この本を5人の俳人に読んでいただきました。



ウェブ刊・定価：本体2500円＋税

超結社句会 新12番勝負



前列右から 遠藤氏、波戸岡氏、仲村氏
後列右から 星野氏、藤本氏、大竹氏

ゲスト 遠藤若狭男・大竹多可志

仲村青彦・波戸岡旭

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集長 超結社句会の第27回目です。ゲストは「若狭」主宰の遠藤若狭男さん、「かびれ」主宰の大竹多可志さん、「朝」同人の仲村青彦さん、「天頂」主宰の波戸岡旭さん。ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さん。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 4点句が2つあります。まず、

知り合ひの僧に声かけ苗木市

⑧青柳美

旭 上手く、さりげなく詠んでいるというところでしょうかね。特別のことはいけません。

青彦 「苗木市」がお寺であって、その僧と親しいという背景の広がりが出てきて、さりげないけれども、良い句だと思っています。

美和子 何ていうこともない情景だと思っんですけど、「知り合ひの僧」が出てくることで、「苗木市」の規模が分かるような気がしたんですね。ほとほとの人出、ほとほとの苗木。季語と表現がマッチしているかなと思いました。

多可志 「苗木市」という季節の持つ情感と、「知り合ひの僧」というものの性の良さでしょうか、わたしたちは性